



かわいい花稚児が行列を彩ります

巖かに、きらびやかに

弘法寺の御供養

5月5日、千手山弘法寺（牛窓町千手）で御供養が行われました。

この行事は、奈良時代、尼僧となった中将姫を阿弥陀如来が聖衆とともに極楽浄土へ導くという『中将姫』の物語を劇化したものです。

弘法寺の御供養は、鎌倉時代までさかのぼることができ、六観音、地藏、天童といった聖衆の行道面を被った一行を、胎内に人間が入った阿弥陀如来像（被仏）が出迎えるなど本来の姿を

よくとどめており、具指定重要無形民俗文化財に指定されています。

本堂の焼失で中断したものの多くの人の努力により平成9年に再開。当日は、古式ゆかしいこの御供養を一目見ようと大勢の見物人が集まりました。

極楽浄土に見立てた遍明院を出た一行は、導師から中将姫の像が受け渡される中、僧侶、稚児などを従えて、阿弥陀如来像の待つ東壽院へ向けてゆつくりと練り歩きました。

「島の宝100景」に認定

前島の干潟「アマモの森」

「島の宝100景」に前島（牛窓町牛窓）の干潟に広がるアマモの群生地「アマモの森」が選ばれました。

これは、海とかわる島ならではの自然や歴史・文化・暮らしなどを映し出した景観を後世に引き継ぐことを目的として国土交通省が募集していたものです。

遠浅の入り江にほんの少し自生していたアマモは、年を追うごとに繁茂し、今では立派な海の森になりました。アマモは、「稚魚のゆりかご」とも呼ばれ、多くの生物のすみかとして重要な役割を果たしています。



干潟に現れるアマモのじゅうたん



ツメタガイの卵「スナチャワン」



表観音に中将姫の像が受け渡されます



導師により運ばれる中将姫の像

古代の気分を満喫

須恵古代まつり

5月3日、須恵古代館周りで、須恵古代まつりが開催されました。オープニングでは地域の父母などで結成されたとつかあずの太鼓を皮切りに、子どもたちが火おこしに挑戦。

古代と同じ道具を使って、へとへとなりながら火をおこすと、ステージからもくもくと煙が。火は慎重に灯火台に点火されオープニングを飾りました。



消えないようにドキドキしながら灯火台に点火



一糸乱れず演奏を披露する美和っ子太鼓の皆さん

その後、美和小学校5・6年生による美和っ子太鼓の皆さんが、そろいの法被で登場し、見事なばちさばきを披露。また、名刀太鼓の勇壮でコミカルな演奏には、会場も手拍子で参加。

会場周辺では、地元の人々がポテト、焼きそばなどを販売し、子どもから大人までたくさんの方が地域を挙げて祭りを盛り上げていました。

地元の特産品が大集合

備前福岡の大市

4月26日、長船町福岡市場小路一帯で、備前福岡の大市が開催されました。

この市は「一遍上人絵伝」にも描かれた中世福岡の市を再現しようと始められ、今年で4年目。

毎月第4日曜日に行われている備前福岡の市ですが、この日は、年に2回の大市とあって、20テン



大人も子どもも土ひねりに夢中

土ひねりを体験

春の寒風陶芸展

5月3～5日の3日間、春の寒風陶芸展が開催されました。

家族連れや友人のグループが多数訪れ、土ひねりや絵付けに挑戦し、思いの作品を仕上げていました。

また、寒風陶芸の里の作家による作品の展示・

トが立ち並び、地元の特産品が大集合。

新鮮な野菜や魚介類に加え、カキフライドッグなど工夫をこらした新しい商品が所狭しと売られていました。

当日は、風雨の強いあいにくの天気にもかかわらず、早朝から大勢のお客さんが駆けつけ、備前福岡の大市は大盛況でした。



地元産の特産品が飛びように売られています